

# Acanthus

特集座談会

## 薬学部6年制／新4年制が 来年スタート

金沢大学薬学部長 石橋 弘行 ほか

夢project 石村教授 JOC強化スタッフに

ヤングパワー 金大フォーミュラ研究会 総合優勝

医療最前線 医学部附属病院 新中央診療棟オープン

地域と歩む 学生が「婦人会」へ提言!

海外からの報告 台湾の活気

Dou!Sou!Kai! 便り 十全同窓会

歴史探訪 石川県金沢病院と石川県金沢医学所

ニュース&トピックス

NO.3

2005・AUTUMN

# 薬学部が変わる！ 新たに6年制を導入 新4年制もスタート！

平成18年度、来春から全国の薬学系大学・薬学部に、薬剤師の養成を主眼にした6年制が導入されます。医薬分業という時代の流れや患者さんへの服薬指導の必要性にこたえるべく、薬剤師の質を高めることを目的にした新制度です。一方、研究職志望の4年制も併設して良いことになりました。全国各大学の改組を見てみると、全定員を薬剤師志望の6年制に充てる大学もあれば、定員の約9割を研究職志望の4年制に充てる大学もあります。金沢大学では、現在の総合薬学科の入学定員75名が、薬剤師志望学生のための薬学科（6年制）35名、研究職志望学生のための創薬科学科（4年制）40名となります。また、高校三年生には、早期に進路決定を無理に迫らず、入試段階では両学科一括で選抜し、正式な学科の決定は3年次後期に行います。このように柔軟な「新・薬学部」となる金沢大学。変わる薬学部への思いと、これから薬学系を目指す高校生たちへのメッセージを、薬学部長と二人の大学院生に話し合ってもらいました。



**石橋弘行** 金沢大学薬学部長  
(金沢大学大学院自然科学研究科教授)

大阪大学薬学部助手、京都薬科大学助教授を経て、1995年、金沢大学薬学部教授に就任。2003年11月より、金沢大学薬学部長を務めている。(兵庫県出身)

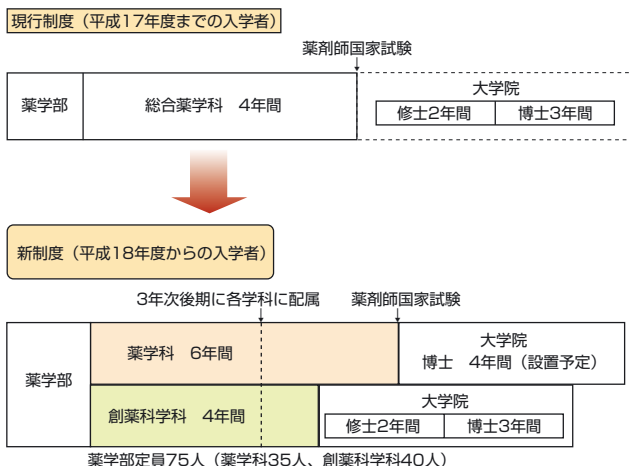
**6年／4年制の併設は、  
より金大らしさを  
発揮するため**

**学部長** 平成16年5月に学校教育法が改正されたのを受けて、私たち大学側も検討を重ね、それぞれ激論を闘わせた上で、来年度から新たな薬学部をスタートさせるわけだけど、薬学部を卒業して大学院に進学した二人は、薬学部6年制を、どんなふう理解していますか。

**保科** これまでずっと4年制でやってきたのが、来年からは6年制が導入されて、薬剤師国家試験受験資格を得るためには、この6年制の薬学部を卒業しなければならなくなるということですよね。

**谷口** 街で調剤薬局が目につき、医薬分業が進んでいることを実感しますし、確かに薬の種類とかもどんどん増えていて、薬剤師に高度な知識と能力が求められるのは、理解できるような気がします。

**保科** 患者さんへの服薬指導に必要な知識はもちろん、患者さんとのコミュニケーション能力など、これからの薬剤師を



養成するための薬学教育には4年では不十分で6年は必要だということなんですよ。

**学部長** 優れた薬剤師を養成するという意味では、その通りだと私も思いますし、欧米の大学の薬学部では薬剤師の養成を主な目的にしているのが一般的です。

**谷口** でも日本の薬学部が歩んできた歴史は違うのですよね。薬剤師を養成してきたのはもちろん、僕のように研究者を目指し、世界で初めての新薬の開発を夢見ている(笑)ような学生をもまた、しっかり育ててきたのが、日本の薬学部だと…。

**学部長** そのとおり(笑)。優れた薬剤師も、優秀な研究者も、そのどちらをも輩出してきた、この伝統ある金沢大学薬学部の両面性を、新・薬学部でもしっかりと受け継ぎ、研究職志望者を受け入れる4年制と、薬剤師志望者のための6年



**谷口 剛史**さん

(創薬研究職志望)

金沢大学大学院自然科学研究科「生命薬学専攻」博士前期(修士)課程2年。「機能性分子設計学研究室」に籍を置き、創薬研究者を目指している。(金沢大学薬学部卒業/和歌山県出身)

薬剤師になるための国家試験受験資格はあったのですが、臨床薬剤師として患者さんと接するためには、もっともっと経験を積まなければと痛感していました。と言うのも、大学時代に薬剤師としての実習というのは、わ

制との併設を軌道にのせて、確かな実績に結びつけるのが私の使命だと思っています。

**研究職/薬剤師を志望！  
まさに新・薬学部を、  
先取りしている二人！**

**学部長** 研究職志望者を受け入れる4年制と、薬剤師志望者のための6年制を、まさに先取りしているようなお二人です…。

**保科** はい、まさに薬剤師を目指した6年制システムのケーススタディになるのではないかと、そんなふうに思ったりしています(笑)。

**学部長** そうですね。保科さんは、北陸大学の薬学部を卒業してから、そのあと金沢大学大学院に進学したんですね。

**保科** はい、大学を卒業しましたので、

ずか1ヶ月しかないんですから…。

**学部長** 来年度から始まる6年制では、この実習が学部での1ヶ月に加えて薬局・病院など現場での実習が約5ヶ月カリキュラムされています。

**保科** 最低でも、そのくらいは必要な気がします。薬剤師というのは、机上の仕事ではなくて、患者さんを相手にしての本当にヒューマンな仕事なので…。

**学部長** 保科さんは自分からこうして大学院に来て、トータル6年にわたって学んだあと、薬剤師として社会に出るといこうプランを実践しているわけですが、まさに、新・薬学部の6年制というのは、保科さんのように6年間学ばなければ薬剤師になれない、国家試験の受験資格を得られない、という制度です。

**谷口** そこで、僕のように薬剤師になりたいわけではなくて、新薬開発や未来の薬学研究に燃えている学生のためにあるのが、新4年制ということになるんですね。

子供の頃から自然科学系が好きでしたし、その興味を人のために役立てるような方向に進みたいと考えたときに、薬学



**保科 有希**さん

(臨床薬剤師志望)

金沢大学大学院自然科学研究科「医療薬学専攻」博士前期(修士)課程2年。「病院薬学研究室」に籍を置き、臨床薬剤師を目指している。(北陸大学薬学部卒業/群馬県出身)

部が選択肢に挙がったのです。単に化学的、理学的な分野ではなくて、医療という分野なら新薬の開発で直接的に人の役に立てるのではないかと…。

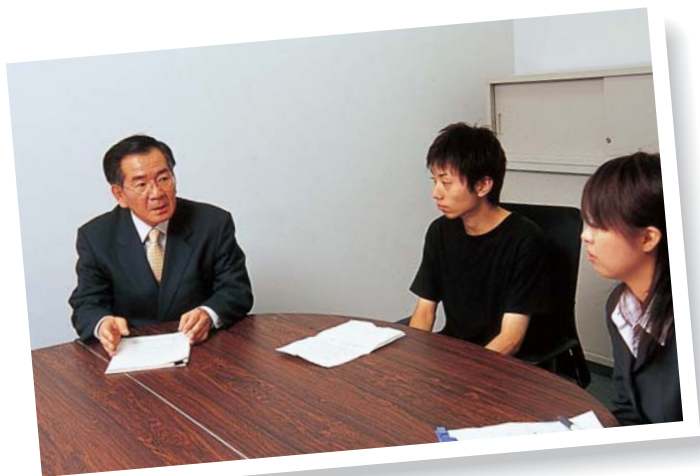
**学部長** そう、谷口君のような志の学生たちもいっぱいいると思うんですね。そういう学生たちのためにも、創薬科学科を設ける必要があったのです。

もちろん、薬学の分野、創薬の世界の高度さを考えると、大学の4年だけではなくて、修士課程への進学は必須だと言っても良いでしょうし、さらには博士課程へ進むことも積極的に考えて欲しいと思っています。



# 薬剤師は、机上の仕事ではなく患者さんを相手にしてのヒューマンな仕事。

(保科有希さん)



う一つの課題に直面せざるを得ませんでした。それは、高校三年生たちに、大学受験の段階で進路決定をどこまで迫るべきなのかという点です。

**谷口** 今から6年前の自分を思い出すと、薬学部へ行くんだとほぼ決めてはいましたが、理学部でもいいのではないかと薦める人もいて、ちょっと迷ったりしたの覚えています。

**保科** 私の場合は、医療の現場で働きたいの思いは早くから持っていましたので、看護師か薬剤師かという選択では少しばかり悩みましたが、今はこうして臨床薬剤師を目指してまっすぐ進んでいます。

でも、薬剤師を志望して勉強を始めたけれど、その途中で薬学研究や新薬開発の道に進みたくなることも、やはりあるのではないかと思います。

**学部長** そのあたり、進路決定時期をどこに持ってくるのかという議論は、学部内でも百論ありました。

進路は早く決めるにこしたことはない。研究者と薬剤師とはカリキュラムに自ずと違いがある。しかし、選択を無理強いて途中で挫折したのでは本末転倒だ。...

**谷口** 難しいところですが、まず薬学系

という広い間口で入学し、そのあと研究職を目指すのか薬剤師を目指すのか、ある程度の考慮期間があった方がいいような気がします。

**学部長** 金沢大学の出した結論は、6年制と4年制の2学科に最初は分けることなく、一括入試を実施するということ。受験段階で進路の決断を迫ることを避けて、3年次後期に学科を決定してもらうことにしました。

もちろん、優柔不断を許すという意味ではありません。進路が決定している学生は、その志望にしっかり向き合ってもらいたいと思います。

ただ、高校3年という若い段階での心の動き、判断の揺れというものをもちやんと受け止めることのできる薬学部でありたいと願っています。

**6年制と4年制の2学科！  
受験段階で進路の決断を  
迫らず、3年次後期に学科を  
決定します**





**楽しく学べるのが薬学だけど、  
決して楽に学べるわけでは  
ないのが、薬学のステキで  
スゴイところですよ**

**学部長** 私が金沢大学の薬学部に来てから10年になりますが、その間に教えた研究室の教え子たちのすべてが薬剤師資格を持っているんですよ。誰ひとりとして国家試験に落ちた学生が研究室にはいないということを密かな自慢にはしています(笑)。

**谷口** そういう意味では、そもそも薬剤師試験を受けない教え子たちが、これからは出てくるということになるんですよ。

**保科** 当初は科の別なく入学した学生たちも、三年次の後期には薬剤師国家試験の合格を目指す「薬学科」と、資格や国家試験ではなく薬学研究、新薬開発を目指す「創薬科学科」とに分かれるということに…。

**学部長** ただ、薬剤師と創薬研究者という二つの進路しかないんだと狭く考えることはありません。

私自身はもちろん、君たち二人もずっと感じてきたことだと思うのだけど、薬学って本当に懐が深い学問ですよ。

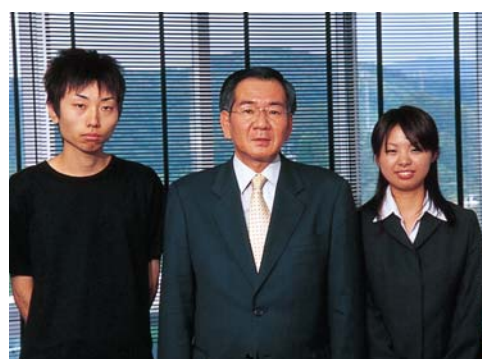
**谷口** そのあたりに関しては、僕も言いたいですね。薬学とは言いますが、そのフィールドというのは、化学があり生物があり物理もあって、本当に幅広いんですよ。

**学部長** 確かにそうですね。ですから、私が学生たちを送り出したのも製薬関連の企業や研究所だけではなく、印刷会社や製紙会社、それに食品、バイオ関係など、まさに多岐にわたっていますから…。

**保科** よく言われることですが、「薬」という漢字には「楽」という漢字が入っていますよね。これって、「薬学」のことを言い当てているけっこうスゴイことだと個人的には思っているんですが…。

**谷口** はい、決して楽ではありませんが、楽しいと感じることはありません。研究

室での実験というのは、そのほとんどが失敗の連続なんですけど、だからこそ、ちょっとしたヒラメキが求めていた結果を導き出したりしたときなど、文字通り手が震えるほどに感動しますから…。



**保科** 私も臨床実習のときに患者さんから、ひと言「ありがとね」と言われたときなど、胸がジンとなりました。

**学部長** 二人とも、嬉しい言葉をありがとう。薬学というのは、あくまでもそこに人がいるというか、ヒューマンな部分にあふれていますし、社会的な責任の重さを実感するフィールドだと思います。

金沢大学の薬学部の前身を探ってみると、明治維新の一年前1867年にまで遡ることができるんですよ。

今まさに「薬学部維新」だとも言えるでしょうし、薬学部の新たな歩みに全力を尽したいと、心を新たにしています。

単に化学的、理学的分野ではなく、医療分野なら新薬の開発で直接的に**人の役に立てる**と思う。(谷口剛史さん)

# チャンピオンになりたければ チャンピオンのごとく行動しよう

本学教育学部 石村宇佐一教授（附属中学校校長）が、今年度の日本オリンピック委員会（JOC）強化スタッフに委嘱され、3年後の北京五輪でのメダル獲得を目標に選手を心の面から支えていく。同教授は、石川県内でただ一人のスポーツメンタル指導士であり、シドニー五輪やアテネ五輪でもサポート役を務めた。このたび、韓国で開かれた「日・韓教育健康シンポジウム」に参加し、メンタルトレーニングについて発表するなど、多方面で活躍中の石村教授取材した。



教育学部教授（附属中学校長）

## 石村 宇佐一

メンタルトレーニングの  
きっかけは、一冊の本

1 985（昭和60）年、米

国力ニヤス大学  
へ留学した際に、  
『エクセレンス』と  
いう本に出会ったこと  
が最初のきっかけだった。石村教授は、この本から、技術と同時に心を鍛える必要性を教えられ、「日本でも、きちんとした教育をしなければいけない」と痛感したと言った。

その後、バスケットボール（バスケット）発祥の地であるスプリングフィールドカレッジへの留学を勧められ、この時の教授が、バスケットのヘッドコーチでありスポーツ心理学者だったことから、ますますメンタルトレーニング（メントレ）にのめりこんでいった。  
帰国後すぐに、石村教授が部長を務める「バスケットチーム」を対象に、メントレを取り入れた。

当時の日本では、メントレの必要性を



説く者が少なく、出版社に、「バスケットとメントレに関する本（翻訳本）を出版しましょう」と薦めたが相手にされなかった。「3年経つてから、『あの本を出版しましょう』と誘いを受けた。ようやくメントレが普及したかと思うところでした」と笑顔で語る。

トランポリンとの出会いが、  
オリンピックに

1992（平成4）年に、古章子氏（現

2000年シドニーオリンピック古選手と

金沢学院大学 講師)が石村教授の研究  
室に入学してきたのがトランポリンとの  
出会いだっただ。

入学当時、トランポリンの世界では既  
に全日本チャンピオンだった彼女に、「チ  
ャンピオンであり続けることが必要」であ  
り、「チャンピオンであり続けるためには、  
日頃からチャンピオンのごとく行動しな  
さい」と心の鍛錬を説いた。

古氏は、世界選手権などに参加した後  
でも、ゼミには必ず出席するなど、日常の  
訓練や生活面においても、常に頂点を意  
識した行動を取ることに、結果的に  
は、大学を卒業するまで第一人者であり続  
けた。

折りしも、シドニー五輪からトランポ  
リンが正式種目として認められたことか  
ら、古氏には、シドニー五輪への出場、更  
には入賞という大きな目標を持たせ、集  
中力、冷静さ、自信を培わせるメントレ  
サポートした。

「幸いにも、彼女は、初めて実施された  
トランポリンの女子個人で6位に入賞し  
た。私もサポート役として、シドニー五輪  
に連れて行ってもらうに幸せでした」と述  
懐する。

古氏とは14年間の付き合いであり、彼  
女のチャンピオン時代を含め、やがて競技  
生活を終え、指導者として成長していく  
ところまでサポートしてあげた。



韓国で開かれた「日・韓教育健康シンポジウム」で発表

### 「心」を鍛える

我

が国のスポーツ界では、まだまだ  
「技術」の指導を優先し「心」を強  
化するサポートが不足している。大会に  
なると萎縮し、最高の結果を出せないま  
まで終える選手が多い。石村教授は、「根  
性主義だけじゃ世界に通用しない。相手  
じゃなく自分と戦うことが大切」と強調  
する。

トランポリンで3年後の北京五輪出場  
を目指している半本ひろみ氏(金沢学院  
大学院生)や世戸瑤子氏(同大学生)にも、  
「オリンピックで最高の結果を出せるよ  
う、フレッシャーに負けない心に鍛えるた  
めのトレーニングを施し、心の面から支  
えて生きたい」と強い意欲を示した。

### 石川県内の 「スポーツメンタル 指導士」は、一人

スポーツメンタル指  
導士は5年前にできた  
資格。「有資格者は、全  
国で30〜40人程度。北  
信越地方ではおそらく  
私人ではないでしょう  
か(指導士補は数人い  
る)」と語るとともに、

「若手のスポーツメン  
タル指導士を数多く育てることが急務  
と訴える。

この資格は、5年毎に更新審査を受け  
るが、審査は、最近5年間の学術上の実  
績や研修実績が重要視され、過去の名声  
だけでは更新されない非常に厳しいもの  
だという。石村教授は、当資格者の第1期  
生で、「更新手続中」だそうだ。

### 今後の抱負

石

村教授は、「メントレは、スポーツ  
の世界だけのものではない。日常  
生活のあらゆる面で必要。芸術の世界や  
医師、宇宙飛行士、更にはビジネスの世  
界においても同じ」と重要性を説明。  
教育面においても、附属中学校や高校  
で中高大連携の教育プログラムを取り入

れ、多感な時期の生徒らの心理面を鍛え  
ることにより、「勉強や部活動などで切  
れない集中力やあきらめない精神力など、  
強い心を培うことを目指したい」と熱く  
語る。

今後は、選手や学生・生徒等を中心と  
したプログラムから、高齢化社会にも対  
応できるプログラムを確立するための研  
究に励みたいと言った。

### 受験生へのメッセージは、 「パーフェクトを狙え」

「金沢には文化があり、学び環境(土壌)  
が整っている都市。本学への受験を目指  
し勉強している受験生には、「パーフェク  
トを狙え」と言いたい。失敗やミスから  
は学ぶことが多くあるが、大きな夢、高い  
目標に挑み、チャンピオンとなって欲しい  
とエールを送った。



シドニーオリンピック6位入賞の演技



F研心得  
 一、遅刻厳禁  
 一、挨拶  
 一、提出期限遵守  
 一、自己管理  
 一、団体行動  
 一、整理整頓  
 一、有言実行  
 平成十四年九月

close-up

young power

# 頂点に立つ者たち

## 金沢大学フォーミュラ研究会

「総合優勝、——金沢大学！」

響くアナウンスに、メンバー全員が飛び上がり、歓声を上げ、そして抱き合った。

金大フォーミュラ研究会が「第3回全日本学生フォーミュラ大会」で悲願の総合優勝を果たした瞬間である。

小型フォーミュラカーを学生たちが自作、その性能を競う本大会。居並ぶ工業系や私立の大学を押さえての優勝は快挙としか言いようがない。

「総合優勝と分かった瞬間、喜びで涙が流れました。生まれて初めての経験でした」

優勝報告会の席で穏やかに語るのは、チームリーダーの中尾仁さんだ。

どんな工夫が、どんな努力がチームを総合優勝へと導いたのか。金大フォーミュラ研（以下…F研）の皆さんに、お話を伺ってきた。

軽く、そして重心を低く

軽量化と低重心化が、今大会優勝の鍵だったと中尾さんは言う。



F研の誇る小型フォーミュラマシン“KF2005”は、中空の鉄パイプでできたフレームに、エンジンと薄いFRP製のボディを乗せている。

少しでもマシンを軽くするために、F研メンバーはパーツの綿密な設計と強度シミュレーションを繰り返した。

フレームの肉厚を可能な限り薄くしたり、後輪のブレーキディスクを1枚にするなど、設計から無駄をとことん省いたのだ。その結果、およそ25kg重量を落とすことに成功した。

そして、発想の転換でマシンの重心を下げた。

車高を下げての低重心化には限界がある。そのため、F研は“マシンに積まなければならない最も重いモノ”す

なわち“操縦者”の搭乗位置を低くするという方法をとったのだ。これによりいっそうの低重心化が図られ、コーナリングでの安定性が向上することになった。

それら工夫が噛み合った結果、

KF2005は、“加速性能”の種目で、“4.025秒”の日本新記録を叩き出した。その記録は世界でも十指に入るそうだ。



(エントリー45大学)	
総合優秀賞	1位 (得点 819.5/1000)
静的審査優秀賞	2位 (得点 293.9/325)
コスト賞	3位 (得点 80.4/100)
デザイン賞(設計審査)	1位 (得点 150/150)
プレゼンテーション賞	5位 (得点 63.5/75)
加速性能賞 <b>[日本記録]</b>	1位 (得点 75/75 記録:4.025秒)
スキッドパット賞(旋回性能審査)	7位 (得点 41.57/50)
オートクロス賞(総合性能審査)	9位 (得点 102.01/150)
エンデュランス賞(耐久・燃費性能審査)	5位 (得点 307.03/400)
特別賞	受賞
経済産業大臣賞	受賞
FISITA賞	受賞
ベストWEBサイト賞	2位

(※上記は大会表彰式後に配布された結果速報より)

リーダー 中尾 仁さん







## 逆境をユーモアに変えて

日本一。

その結果に至る道のりは、やはり苦難の連続だった。F研には時間も資金も、マシンをテストする空間すらも、何一つ足りていなかったのだ。メンバーは、それらを個々人の努力で補っていたのだ。

時間は睡眠時間を削ることによって手に入れた。

授業を受け、メンバーのバイトが終わった22時から翌日の1時までをマシン製作の時間とした。追い込みの時期には空が白み始めるまで頑張った。「タウリン（栄養ドリンク）が手放せませんでした」

そう、ユーモアを交えて話してくれたが、この間にも彼らは学期末試験をクリアし、大学院入試に合格し、就職の内定を得ている。

資金はスポンサーを募った。

KF2005の制作費は200万円

超。メンバーは自作できないエンジンなどのパーツを表にまとめ、それらを製作する企業をリストアップした。そして自らの足で企業を回り、F研の活動趣旨を説明。支援を取り付けた。

メンバーのユニフォーム、マシンのボディに張られている無数のステッカーは、支援してくれたスポンサー企業に対する感謝の証なのだ。

こうやって苦勞の末に組み上げたマシンは、車庫前の、駐車場に続く直線と小さな駐車場でテストした。

テスト時は一般車輛の移動協力、騒音による付近の住民の方々へのご迷惑など、様々な問題があったが、ハンドレを跳ね除け優勝することによって、その恩返しをした形となった。

# Kanazawa FORM

Check!

金大フォーミュラ研究会  
ホームページ

F研への応援はこちらから。

<http://f-engine.eg.t.kanazawa-u.ac.jp/formula/>

金大フォーミュラ研究会は工学部に限らず、広く全学からメンバーを募集しています！

## 信頼する仲間たちと、世界へ

彼らのホームページ「Kanazawa Univ・FORMULA R&D」。

そこに今年一年、車輛の製作から大会優勝までの記録が、メンバーの日記として残されている。

少ない睡眠時間。勉強との両立。自作パーツに対するプライドから、取っ組み合いの喧嘩になりそうなこともあったというが、少なくともその文面から悲壮感を感じられない。伝わってくるのは、ものづくりに対する情熱と、メンバーに対する信頼だ。

日本の頂点に立った金大フォーミュラ研究会。

彼らの次の目標は世界だ。今大会のモデルとなった、アメリカの学生フォーミュラ大会に参戦、そこで優勝し「世界一」となることを目指すのだそうだ。

もちろん、車輛運搬費用、滞在費は莫大で、正直なところ参加の目処すら立っていない状況ではあるが、

「まだまだ軽量化は可能です」

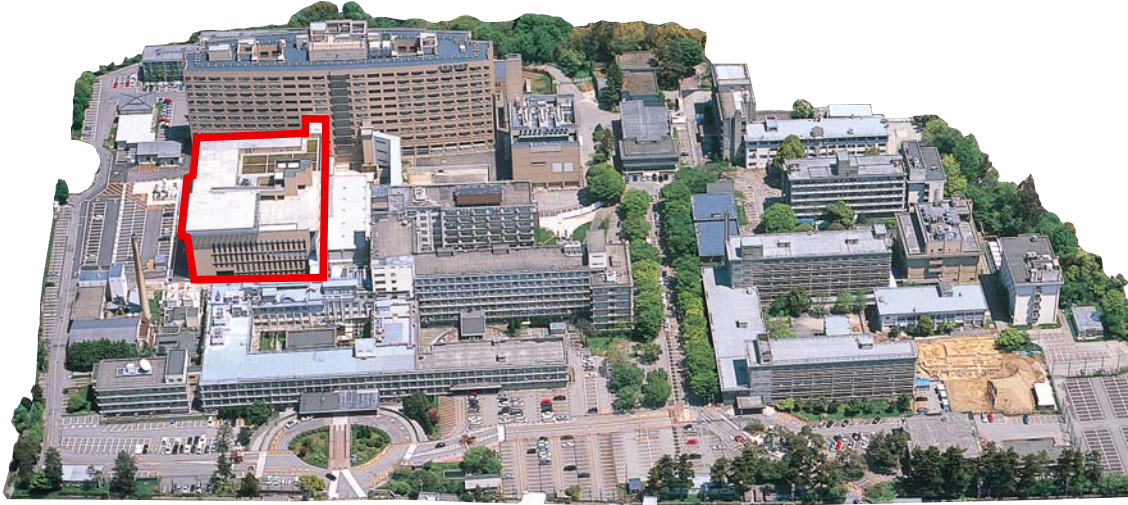
「電気系統も見直す必要があります」  
など、すでにチームの士気は高い。

日本一を成し遂げた彼らに、割れんばかりの拍手を。

そして、世界一を目指す彼らに、惜しめないエールを送りたい。



# 医学部附属病院 新中央診療棟オープン



再開発が進む宝町キャンパス（赤線内が完成した新中央診療棟）

## バリアフリーホスピタルをめざす

**医** 学部附属病院の新中央診療棟が完成し、10月から診療を開始した。同院では、患者の立場に立って高度先進医療をサポートするという目標の下、バリアフリーホスピタル（障害のない病院）の概念を導入した病院の再開発を進めてきた。バリアフリーホスピタルとは、施設面でのバリアフリーのみならず、患者と



9月に行われた新中央診療棟の完成記念行事で手術用ロボットを見学する関係者

医師、各診療科間のバリア、病院経営と高度先進医療とのバリアなど、様々な障壁を取り除こうという考えで、オープンした新中央診療棟もこの考えに基づいて整備されている。

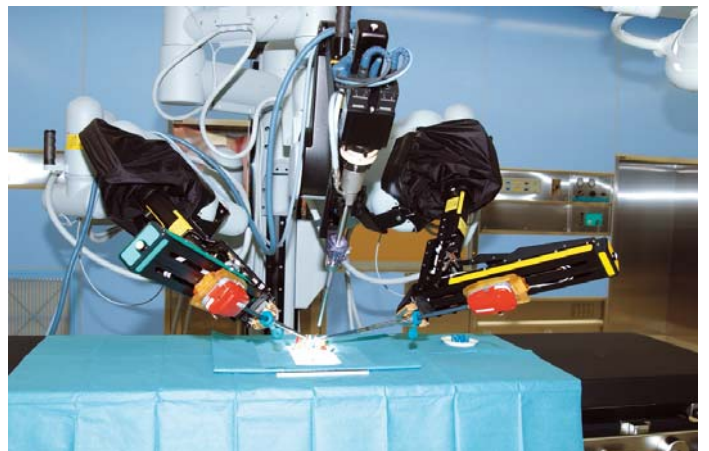
## 手術室と術後回復室を直結

**患** 者の利便性向上や負担軽減のため、新中央診療棟にはこれまで分散していた手術部、放射線部、検査部、救急部など12の診療部門を一つの建物に集中させ、新中央診療棟の手術室と病棟の術後回復室を廊下で直結している。また、手術室を12から14へと拡大、遠隔操作型の手術ロボットや最新の手術台等、最先端の医療用設備を導入するなど高度先進医療への取組みを進めている。

## 遠隔操作ロボット導入で患者負担を軽減

**手** 術室に導入された手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」は、通常80cm以上切開する必要がある手術が8ミリ程度の穴を3〜4ヶ所開けるだけで可能となり、患者への負担が少ないため、早期の退院が実現するという。

国内ではこれが3台目の導入で、大学病院では院内での利用のほか、将来的には遠隔操作により、医師の少ない僻地の利用を考えている。



ロボットの腕先に内視鏡と鉗子（かんし）が付いていて、その腕を遠隔操作して手術する



内視鏡で撮影した映像を覗き込みながらロボットの腕を操作する

何か協力できることはないか

9月中旬、法学部眞鍋知子助教ゼミの学生、河合久充さんと青山有香さんが質問リストを手にかほく市女性協議会会長の沖野美智子さんを訪ねた。「市町村合併に伴う婦人会合併の問題点は」「婦人会活動の衰退への対策は」など婦人会の現状と抱える問題点について熱心に聞いていく。

ゼミでは、今年「いしかわ大学連携促進協議会」が公募した地域課題研究ゼミナールに、「市町村合併後の地域婦人会活動の活性化」をテーマに応募し採択された。県内の合併後の10市町村を対象に、ゼミの学生10人が1地区ずつ担当で聞き取り調査を行う。

もともと眞鍋助教の研究テーマだっ



沖野さんは学生の質問に1つ1つ丁寧に答えてくれた

学生が「婦人会」へ提言！

金沢大学の学生が「地域婦人会」について研究している。今、地域婦人会組織が会員減にさらされ崩壊の危機にあり、学生がその原因を探り活性化策を地域へ提言するという。学生の調査の現場に同席して話を聞いた。

「婦人会」。調べることになったとはいいが、「婦人会って、名前を母から聞くくらい」で、何しているところか全然知らなかったと河合くんは言う。しかし、各地の地域婦人会活動について調べ、8月に輪島市で開かれた「輪島市・門前町の合併に向けての婦人会交流座談会」で、市町村レベルの婦人会トップと各町会婦人会会長の温度差など現場の悩みを聞いていくうちに、何か協力できることはないのかと考えるようになったそうだ。

聞き取り調査で、沖野さんは「これまで地域婦人会は、行政と協力して生活環境改善に取り組むなど様々な役割を果たしてきた」という自負がある一方、「地域の婦人会に若い人が入らない。女性の社会進出が婦人会活動を衰退させた」との悩みも打ち明ける。

眞鍋ゼミでは、聞き取り調査のほか、未

端の会員の声を聞くためにアンケートを行う。役員と一般会員の意識の違いを調査し、また、今年金沢で開かれる「全国地域婦人団体研究大会」を取材、12月には結果をまとめて成果発表会で報告する予定だ。青山さんは「学生の間で議論を重ねて結果をまとめる。当事者でない客観的意見として地域に提言したい」と意気込む。

眞鍋助教



輪島市で開かれた婦人会交流座談会に学生(写真右下)が参加

地域への興味のきっかけに

どんな調査結果がまとまるのか。沖野さんは「若い人に興味を持ってもらうとうれしい。調査結果を楽しみにしている」そうだ。

公務員志望であるという青山さんは、調査を終えても「老人会」など地域のことと目を向けていきたいという。この課題への取り組みが、地域へ興味を持つきっかけになったようだ。

眞鍋ゼミのほか、上記地域課題研究ゼミナールには、金沢大学の8件を含め県内大学から14件の課題が採択されている。学生が様々な地域課題に取り組みことで、大学と地域の交流が深まることを期待したい。

2005年6月から2006年の2月までの9ヶ月間、大学間交流協定校である国立台湾師範大学に留学している学生から、台湾事情について報告してもらいました。彼女は現在、台湾人の大学院生と同居で生活し、台湾人の考え方や生活習慣について教えてもらっているそうです。

法学部4年 倉知久彌子

台湾の活気

台湾は活気と熱気につつまれています。中でもそれを一番に感じることできる場所、それは「夜市」＝ナイトマーケットです。夜市とは每晚、夕方から深夜まで屋台や露店がところ狭しと並び、人と店が溢れ、と



台湾師範大学



にぎわう夜市

てもにぎわいをみせる台湾名物です。ここでは台湾独自の安くておいしい屋台料理から、生活雑貨、また「珍」商品まで何でもそろいます。台湾では夜市に限らず、人が集まるところには必ずといっていいほど屋台や露店が並びます。また、台湾人は老若男女、いつでもどこでもこの露店商売を始める人が少なくありません。夜市や露店は台湾の人々の暮らしや流行を一番身近に感じることができる場所です。

中秋節

台湾の祝祭日の多くは旧暦に基づいて行われます。中でも、春節(旧正月)・端午節・中秋節は台湾三大節といわれ台湾人にとって、とても重要な日です。今年9月18日が中秋節、日本ではお月見でした。台湾人は年配の人や家族関係を大切にしますが、この日はみな家族や大切な人と過ごします。台湾では家族団満を願って月餅を食べる他、文旦(いよかに似た緑色の果物)を食べます。また、台湾では家族や友達とお月見をしながらパーベキューをするのが最近のはやりです。そのため、この日、路上のいたるところで焼肉をしている人を見かけることとなります。

●開学百五十周年を目指して  
先賢を敬慕し新しい医学の  
創造を支援する十全同窓会

金沢大学医学部十全同窓会 会長 竹田 亮祐

「十全」の名は、中国の「周官(周礼と同義)に医は十全をもつと為す…」に由来し、「第四高等学校十全会(1895)」に初めて用いられた。今日の同窓会は、金沢医科大学十全同窓会(1932)に起原をもつ。会誌は1933年に創刊され、戦時休刊の時期をへつ昭和二十五年(1950)復刊され、第一号の論説において「会員の互助団結と物心両面に亘る母校発展のための援助」が強調された。

会は全国に大小三十六の支部をもち、現存会員数は、六三五人を数える。台湾では台北大学名誉教授許書剣先生(昭和十九年卒)はじめ数名の会員が名を連ねている。

総会は毎年七月初め金沢において慣行され、医学部の現状報告に次いで支部長による支部の現状や要望を聞き相互の交流を深めている。また、わが国屈指の古い歴史を誇る母校の過去を温ね(Investigate the past)、遠点をみ(め)て未来の医学を切り開いてゆ(Invigilate the future)との精神に基づき建学の先賢を顕彰するとともに新任教授の研究最前線について講演会を行っている。支援事業としては若手研究者への奨学金授与のほ



▲会報の歴史の変遷

か、卒前研修会支援、学生課外活動(白山、立山診療班、西日本医学学生総合体育大会、A.C. J.S. 金沢 - Advanced Cardiovascular Life Support)への資金授与を行っている。支部活動は、特に福井、大阪、東京、愛知、沖縄など十四の支部において恒例化されており、関西では京阪津、兵庫、奈良を含めた近畿合同の会が開催され、懇親会には法文学部同窓会の代表も加わり全学的な交流の実をあげている。

近年、若い世代の同窓生がすぐれた研究業績をあげ、本学、近隣の大学のみならず旧帝大をはじめ他大学の教授に抜擢されるニュー入が毎回会報を賑わしており、また地域医療、あるいは医療の担い手として貢献している会員も多い。

医学部は附属病院の再開発の完結と研究棟の改築を終えるとともに、金沢における近代西洋医学校開校百五十周年という記念すべき年を迎える。その年2012を栄光あらしめるべく準備が進められていく。

事務局は医学部にあり、年三回の会報発行、会員名簿の管理、支部との連絡を含む全ての事務を担当している。

Dou!Sou!Kai! 便り

E-mail: juzen@med.kanazawa-u.ac.jp  
Tel&Fax: 076-265-2131/076-234-4208

▲新築された附属病院中央診療棟

—3—  
石川県金沢病院と石川県金沢医学所  
〈公立医学教育と公立病院のはじまり〉

資料館客員研究員 板垣 英治

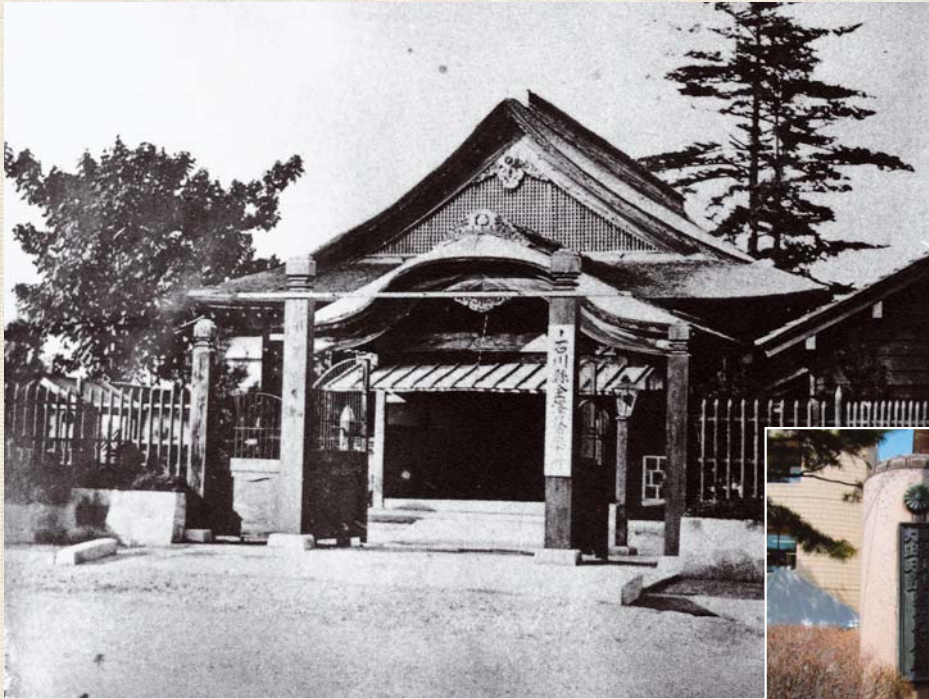


写真1：石川県金沢医学所  
「明治の日本—宮内庁書陵部所蔵写真—」  
吉川弘文館、2000より引用



写真3：幸幸碑

**加** 賀藩が設置した金沢医学館は、廃藩置県のために存続の危機に見舞われましたが、所員の私費での経営で支えられ「私立金沢県医学館」として生き残りました。新たに生まれた石川県に、医学教育と病院の存続の支援を町民と共に要請しました。その結果、明治8年8月に「石川県金沢病院」に生まれ変わり、本県での最初の公立の医学教育・医療機関となり、翌年には石川県金沢病院と石川県金沢医学所となりました。写真1は当時の本医学所の姿を写す貴重なものです。

病院長に大田美農里、医学所長に田中信吾が就きました。スロイスの帰国後、オランダ・アムステルダムでの新聞広告により応募のあったホルトルマン(C. Holtermann)が新たに雇用さ

れ、明治8年8月に着任しました(写真2)。ホルトルマンは有機化学、眼科学、外科学、産科学など8教科の講義を行っています。彼は教育熱心であり、その講義は非常に緻密なものであったことがその講義録から読み取れます。

例えば、有機化学では基礎から薬用天然物、糖類、タンパク質等の生体物質の化学、生理化学、さらに発酵化学にまで及び、パスツールの微生物(「顕微鏡的動植物」と翻訳)による糖の発酵説を紹介していた事は注目されることです。また彼は外科を得意とし、当時の「外科患者治験録」によれば、16例の乳癌患者の治療を行っていたことが記されています。明治9年に富山と福井に分院が開設されました。金沢医学館の第一回の入学生であった藤井貞為(理学)、稲坂謙吉(生理学、動物学)、不破鎖吉(植物学、薬物学)、藤本純吉

が、明治12年9月には現在のNHK金沢放送局の所に「石川県金沢病院」が新築落成して、医学教育と疾病治療の機関は分離しました。なお、明治9年6月に金沢医学所付属薬学科が設置されて薬学生の募集が行われ、薬学教育が始まりました。

(病理学、内科学ほか)も単立ち、教育と診療にそれぞれ携わっています。

**明** 治11年10月に明治天皇は北陸巡幸で金沢を訪れ、3日午後にはこの金沢病院・金沢医学所を視察して、講堂での待医と生徒との人体解剖についての問答をご覧になっています。その際の様子を「石川新報」明治11年10月4日版に掲載されています。大手町の現在の石川県健康センターの前庭には、この御巡幸の記念碑(写真3)があります。



写真2：ホルトルマン  
(医学部記念館蔵)

●このほか、金沢大学のニュース&トピックスは、金沢大学公式ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

## ●附属病院が新中央診療棟の完成記念行事

医学部附属病院は9月9日、新中央診療棟の完成記念行事を行った。記念行事には、文部科学省から医学教育課山本晃大学病院支援室長、文教施設部企画部新保幸一参事官をはじめ、石川県、金沢市、同窓会、近隣病院の各関係者、教職員など約160名が出席し、施設見学の後、林勇二郎学長、山本室長、新保参事官らがテープカットを行った。

また、翌10日には市民への一般公開も行われ、約2000人の市民が見学した。  
 (9面に関連記事)



テープカットを行う林学長(中央)ら

## ●石川県からの寄附講座「地域医療学講座」設置



谷本正憲知事と林学長が協定書にサインした

本学に石川県からの寄附講座「地域医療学講座」を設置することとなり、9月5日、本学と石川県が協定を締結した。この講座は、県内の大学からの公募により選ばれたもので、石川県から本学への寄附による講座は、昨年度で終了した「生活習慣病講座」に続いて2件めとなる。

講座は、医師不足とされる能登北部地区における、医療機関間のネットワーク化とIT技術を活用した遠隔地診断システムの構築を図るもので、期間は2年間。石川県からの年間2千万円の寄附により設置される。

## ●金大F研「フォーミュラ大会」で総合優勝

金沢大学フォーミュラ研究会(以下、F研)は9月6日～9月9日、静岡県の富士スピードウェイで行われた「第3回学生フォーミュラ大会」で悲願の総合優勝を果たした。

同大会は学生が小型フォーミュラカーを自作して、そのコスト、設計、性能の優劣を競うもので、韓国、3大学を含め45大学が参加した。

F研は走行性能を測る「動的審査」「加速性能」で日本新記録をマーク。マシンのコストや設計を見る「静的審査」でも「デザイン賞(設計審査)」第1位、「コスト賞」で第3位を獲得するなど得点を重ね、チームの総合能力の高さを示した。  
 (7～8面に関連記事)



総合上位6チーム(左から3人目がF研)

## ●「法情報センター北陸・金沢サテライト」開設



同サテライトで図書閲覧や情報検索が可能

大学院法務研究科は8月22日、金沢大学サテライト・プラザ内に「法情報センター北陸・金沢サテライト」を開設した。同サテライトは、市民に向けて公的機関が実施する各種相談窓口等の情報提供、法律関係の図書閲覧や判例データベース等の利用提供を行う。また、「法情報センター北陸」では、金沢サテライトでの業務の他、裁判や裁判員制度を市民に理解してもらうため、模擬裁判や市民講座、講演会を開催する。

●林学長が台湾を訪問

9月19日から23日の日程で、林学長が台湾を訪問した。今回の訪問は台湾教育部の招待によるもので、本学の大学間交流協定校である国立台湾師範大学をはじめ、国立成功大学、台北医学大学、国立台湾科技大学等を訪問した。このうち、国立台湾師範大学では2000年8月に締結された学術協力と交流に関する覚書の更新セミナーが行われた。両大学の研究交流、教育交流の一層の発展が期待される。



覚書を交す林学長（左）と台湾師範大の黄生代理校長（右）

●教員有志らが「T教材を学外に販売するベンチャー」を設立



会社設立についての記者発表

本学の授業用に開発された「learning用教材を学外に販売する「金沢電子出版株式会社」が、本学教員ら有志により設立された。これは、文部科学省の現代GPIに選定された「IT教育推進プログラム」を中心に、本学で開発された教材を他大学や企業、個人向けに販売するもので、同社から本学へ著作権使用料を支払うことで、本学や著者である教員へ利益を還元するという。

●医学部附属病院が病院機能評価の認定証を取得

医学部附属病院は7月25日付で（財）日本医療機能評価機構の実施する病院機能評価の認定証を取得した。病院機能評価とは、医療機関の機能の充実・向上を図るため、同機構が、第三者機関として中立的な立場で医療機関の機能を評価するもの。

今回、新たに38病院が認定を受け、同機構の認定発行数は1696病院。国立大学病院は32大学が認定病院となった。



●工学部が（株）ソディックから高額機械を寄附受入れ



佐野取締役本部長（左）から目録を受け取る尾田工学部長(右)

工学部は、（株）ソディック（横浜市）からワイヤ放電加工機の寄附を受けることとなり、9月30日、同社の佐野定男取締役本部長らが尾田十八工学部長を訪れて目録一式を手渡した。この機械は、ワイヤを用いて導電性の加工物との間に放電を起こさせ、そのときに発生する熱で材料を除去する機械で、現在工学部が保有する同種の加工機より高速・高精度な加工が可能となる。

尾田学部長は「今後、本機を活用することで学生に対する教育・研究がより一層充実する」と感謝の言葉を述べた。工学部では、本機を技術支援センターに設置し、広く学生に活用させる予定である。



The 42nd Kanazawa University festival  
**第42回金大祭**

メインテーマ

**風**に**向**かって**立**て

11月3日(祝)~6日(日)開催  
(最終日は16:00まで)

**10月30日(日)は金大祭パレード!**

【詳しくは、金大祭HPへ】

[http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad\\_gakusei/campus/kousei/enjoy/kindaisai02.htm](http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/campus/kousei/enjoy/kindaisai02.htm)

お問い合わせは金大祭実行委員会まで：電話076-232-1487



**11月3日(祝) 10:00~16:00 (入場は15:30まで) 金大祭と同時開催!**

**てくてくテクノロジー**

- パソコンで町をデザインしよう (土木建設工学科)
- 地球に優しいエンジン (機能機械工学科)
- 微生物・植物を用いて環境を保全しよう! (物質化学工学科)
- ケータイで活躍する集積回路 (電気電子システム工学科)
- 産業用ロボットのお話—でかい・つよい・かっこいい— (人間・機械工学科)
- 飼い主を見分けるペットロボット (情報システム工学科)

ほかにもたくさん!

詳しくは <http://www.t.kanazawa-u.ac.jp/tekuteku/>  
お問い合わせ E-mail [opencampus@t.kanazawa-u.ac.jp](mailto:opencampus@t.kanazawa-u.ac.jp)  
電話 076-234-6830 FAX 076-234-6844

**ふれてサイエンス2005**

- 数学相談コーナー (数学)
- 超伝導ってなんだろう? (物理学)
- 放射能の窓から世界を見る (化学)
- ふれあい水槽 海の無セキツイ動物たち (生物学)
- 作って学ぼう恐竜時代 (地球学)
- コンピューターシミュレーションに触れてみよう (計算化学)
- 理学部自然史標本展示会 (生物地学)
- 永久ゴマ (サイエンスファクトリー)
- 科学ショー (特別)

まだまだたくさん!

詳しくは <http://fts.s.kanazawa-u.ac.jp/OpenCampus/>  
お問い合わせ E-mail [fts@cs.s.kanazawa-u.ac.jp](mailto:fts@cs.s.kanazawa-u.ac.jp)  
電話 076-264-5623 FAX 076-234-4140

同窓会情報 **東京四高会**

卓話予定 11月4日(金):能村 昭氏(昭23卒・元前沢化成工業・代表取締役)「海軍兵学校と旧制高等学校」  
12月6日(火):糸多 宗人氏(昭25卒)「南原没後30年—全面講和論を省みて」  
東京四高会事務局 TEL&FAX 048-838-8570 坂田重男



●Acanthusとは?

「アカンス」は、古代ギリシア・ローマに由来し、金沢大学の校章に使われている植物の名称(和名ハアザミ)で、角間キャンパスの各地区をつなぐ連絡橋の名称に使われるなど、学生・教職員に親しまれている。

**ご意見・ご要望**

金沢大学では、より良い広報誌を作成するため、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。  
取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構ですので、下記までお寄せください。

〒920-1192 金沢市角間町  
TEL.(076)264-5024 FAX.(076)234-4015  
金沢大学広報室 宛  
E-mail:koho@ad.kanazawa-u.ac.jp  
HP <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

この4月から5年ぶりに広報誌の編集作業に携わっているが、「Acanthus」は、前「アカンスニュース」と比べ、「横書き」から「縦書き」、「月刊」から「季刊」と大変身。内容も「見る広報誌」から「読む広報誌」と新した。  
前「アカンスニュース」は、平成12年(前担当時)に、企画広報室が新たに発足したこと、旧「アカンスニュース」が、創刊以来50号の節目を迎えること、等を記念しリニューアルしたもの。  
新たな紙面づくりに奔走した当時の思いがよみがえった。諸行無常、栄枯盛衰……。  
今月号では、本学フォーミュラ研が、「第3回全日本学生フォーミュラ大会」で、国立大初の総合優勝と言っビッグニュースが飛び込んだ。拍手喝さい。

(井川 俊昭)

**編集後記**

